第３回　新しい地方経済・生活環境創生会議

資料５

人と海の未来をつくる。

～ 阿部長商店における女性活躍に係る取り組み ～

大自然の生み出す多様な命と共存しながら、
心豊かに幸せに生きる暮らし。
海をフィールドとして命をつないできた人々が創り出す
新たな営みを、ＡＢＥＣＨＯグループは、
海とともに、これからも未来につなぎ、創造していきます。

（株）阿部長商店　阿部憲子

COMPANY OVERVIEW

会社概要

水産事業

FISHRY DIVISION

三陸のおいしい恵みを
安全・安心とともに届けることで
人の心と体に健康を

観光事業

TOURISM DIVISION

リアス海岸の眺望と浜料理。
培われた港町文化を届けることで
人の心と体にくつろぎを

気仙沼食品

気仙沼
フレッシュ

南三陸食品

大船渡食品

渡　冷

南三陸
ホテル観洋

サンマリン
気仙沼ホテル
観洋

気仙沼
プラザホテル

従業員数　687名（2024年12月31日現在）

南三陸ホテル観洋 3.11からの記憶

3月

3.11東日本大震災発生

当館にはお客様と地域住民、スタッフ、周辺住民の合計350名が滞在

翌日には600名以上になり、公の避難所ではなかったが、地域住民を支えた

震災から3日目
ご宿泊者のチェックアウトを開始。

震災から7日目
全員が無事チェックアウトしたが、引き続き避難所運営。

4月

語り部活動に繋がる道案内がはじまる

4.23 お食事処の営業再開
続いて売店も再開

断水が続く中で
お食事処と売店の再開。
被災した取引先の営業再開のきっかけに。

5月

5.5 1次避難所から2次避難所の開設

地域住民の皆様600名、医療、インフラ工事関係者を含め、総数1000名の受け入れ開始

自治会発足。フロア毎に班長を決めミーティングを実施。
避難住民の運動不足解消に音楽コンサート、落語、ミシンや編み物教室、マッサージなど、様々なイベントを開催。

5月26日(震災から77日目)
「洗濯ボランティア」スタート。

6月

6.19 寺子屋、そろばん教室等子どもたちの学習支援プロジェクトスタート

6.27 海水を淡水化するシステムが導入
冷房とトイレが使用可能に

本や学習道具、勉強する場所さえも失った子供たちのために学習の機会と場所を提供。
寄付していただいた1万冊もの本で館内に臨時図書館を設置、学びの場・コミュニティとしての機能をもつ寺子屋やそろばん教室ボランティアとの連携で英会話レッスンなど学習支援プロジェクトをスタート。

民間企業様の多大なご支援により、
海水を淡水化するシステムが稼動。

7月

7.2　水道復旧(震災114日目)
7.24 2階大浴場・露天風呂が再開

7月24日には一般の宿泊客の受け入れを再開した。

避難所の役目を終えた翌日より仮設住宅へ無料巡回バスを1年間運行し、ご高齢者には入浴日を設け8年間無料提供。
館内でコンサートや映画等イベントを継続し住民の方々の交流が広げられる様実施。

8月

8.31 2次避難所終了

2011年8月末に二次避難所としての役割が終了して以降は、一日も休まず、スタッフや地域住民が語り部になり被災した町を運行。
「震災を風化させないための語り部バス」は、これまで47万人以上が乗車している。

震災後のロビーの様子

給水車による水の支援がスタート
被災者した住民へ大浴場を開放

第2次避難所　説明会

学習支援てらこや

ロビーイベント開催

学習支援活動

そろばん教室・寺子屋

2011年3月11日に発生した東日本大震災の津波により、市街地の８割が流出した南三陸町。
当ホテルでは、行き場を失った住民600名、医療関係者、ライフライン工事関係者など、合わせて1,000名の多くの方々を受け入れました。

震災当日から半年以上にわたり、被災者の避難所として、またコミュニティーの場として機能しました。
その中で、親御さんから 「子どもの教育が心配で悔しい」という嘆きを多く耳にし、子どもたちの学習支援の必要性を強く感じました。
そこで、ホテルの４室を開放し、ボランティアの協力を得て独自の寺子屋（学習支援）を無料でスタートしました。
（小中高生160名登録）

地元でそろばん教室を運営していた先生が津波で教室再開を断念したと聞き、ホテル内でのそろばんの指導をお願いしました。

こうした取り組みを通じて、子どもたちが学び、成長する姿は、被災地で生活する家族にとって大きな希望となりました。

そろばん教室は今でも継続しており、未就学児・小中学生の40～60名が取り組み、学力向上、就職にもプラスになっています。

成果

- 2024年　全国そろばんコンクール金賞
  （気仙沼市長賞受賞）
- 2023年　全国そろばんコンクール金賞
- 暗算９段　　４名
- 段位取得者　多数

2024年
「いーたいけんアワード
（青少年の体験活動推進企業表彰）」

【中小企業部門】 奨励賞受賞

文部科学省が主催する、「いーたいけんアワード」という青少年の体験活動を支援する企業を表彰する制度です。

「社会貢献活動の一環として、青少年の体験活動に関する優れた取り組みをしている企業を全国に広く紹介することにより、青少年の体験活動の機会を推進すること」を目的として、2013年度より実施されています。

Earthquake disaster memorial activities

震災伝承活動

震災を風化させないための語り部バス

「震災を風化させないための語り部バス」は、東日本大震災の被災者である語り部の話しを聞けるプログラムで、南三陸ホテル観洋が2011年から運行しています。
被災した地域住民やホテルスタッフが震災当時の体験や様子を語り、町の様子を見て回るだけではわからない実体験や教訓を伝えています。
これまで47万人の皆様に参加していただいております。

- 第2回「観光王国みやぎおもてなし大賞」特別奨励賞受賞
- 第4回「富県みやぎグランプリ」地域産業革新部門賞受賞
- 第3回「ジャパン・ツーリズム・アワード」大賞受賞
- 第14回「マニフェスト大賞」最優秀コミュニケーション戦略賞受賞
- 第20回企業フィランソロピー賞受賞

JAPAN TOURISM AWARDS

震災伝承施設「命のらせん階段」

防災意識の根幹となる「自助・共助・公助」の概念のうち、「自助・共助」を次世代に教示する震災遺構として気仙沼市内ノ脇地区に現存する一部４階建ての旧阿部邸（阿部長商店創業者宅）の建物を85m曳家して保存しております。
津波発生時、当該施設では後付けで設置した避難用らせん階段が屋上への避難に役立ち、身重の方、高齢者を含む約30名の地域住民の「いのち」を救いました。

327名を救った南三陸町の震災伝承施設「高野会館」も弊社で所有しています。

今後の防災・減災のためには、個人や地域コミュニティーで行うことができる「自助・共助」の考えを「震災伝承施設」という形で広く伝えることが重要です。

全国被災地語り部シンポジウム

2016年に開催した第1回「全国被災地語り部シンポジウム」「東北被災地語り部フォーラム」は、東日本大震災をはじめとする災害の記憶や教訓を後世に伝えるために、当館が発案し、阪神・淡路大震災に遭遇した地域の方々にお声がけして実行委員会を立ち上げ、スタートしました。

語り部活動に取り組む人々が集まり、情報共有や、意見交換を行うイベントです。このシンポジウムは継続して開催され、被災地での体験談や復興の現状、語り部活動の意義や課題について議論されています。

「次世代へ」「KATARIEBEを世界へ」をテーマに国、世代を問わず学びの場となっており、ゆるやかなネットワークの構築につながっております。

国内外から累計3,700名以上が参加しています。

地方創生2.0につながる事例紹介

～女性・若者に選ばれる地域へ～

事例 01 事業所内認定保育園 マリンパル

南三陸ホテル観洋では1992年から保育園を併設しており、育児と仕事を両立する社員が安心して働けるよう、利便性に富んだ保育環境で多様な子育て支援行っています。
また、スタッフの子どもだけでなく地域の子ども達も開園時から受け入れをしております。

当社では今後とも、女性が仕事をするうえで十分に能力を発揮して活躍できる環境を整備し、すべての従業員が安心して働ける職場づくりに努めてまいります。

事例
02

気仙沼市初「えるぼし認定」

女性の活躍推進に関する取組の実施状況が優良である企業として
女性活躍のための行動計画を策定・届出
一定の要件を満たした場合に認定する制度です。

株式会社阿部長商店は、令和6年4月22日に
女性活躍推進法に基づく「えるぼし（3つ星）」認定を取得

事例
03

「若者の移住・定住」

埼玉県出身の 辻元惇 さん

ボランティアで南三陸町に訪れ、その後、復興応援バイトに参加し当ホテルで働き、その後正社員としてフロントに配属。

「第10回全国語り部シンポジウム」では分科会で登壇した。

現在は家族を持ち、営業課長として日々活躍中。

震災直後にボランティアを通じ、被災地支援で
当館に関わり、移住・定住をした社員が多数。

「震災を風化させないための語り部バス」女性の語り部

業務課で働く 千葉エメリタ さん

館内清掃係として仕事をするかたわら、語り部としての勉強に加え、英語での語り部活動を目指して学んでいます。

弊社では国籍・年齢を問わず、女性活躍を後押ししています。

「インターンシップ」

日本、台湾からの大学生インターンシップを積極的に受け入れ、日本文化も学んでもらおうと取り組んでいます。
雇用に繋がった例も。
令和７年現在2,000名以上の受け入れ実績。